



第 11 号

平成24年 3月 1日

発行所

福島県立二本松工業高等学校同窓会
〒964-0937

福島県二本松市榎戸1丁目58ノ2

TEL 0243-23-0960

FAX 0243-22-7388

発行者 佐藤忠司

印刷 株式会社丸井工文社

発行部数 12,000部

福島県立二本松工業高等学校 同窓会 会 報

校 歌

詞 草野心平
曲 小山清茂

一日輪は 天にかがやき
阿武隈は 光る動脈
ここ榎戸の 美しき地に
日毎集る われら若人
腕組まん ともに
学ばなん ともに
真善美 ひたに求めて
ああ母校 二本松
われらは愛す われらが母校

二 新しく 時はめぐりて
安達太良に 白き雲沸く
ここ榎戸の 台地より見る
あの高きこそ われらが理想
眉あげん ともに
はげまなん ともに
大いなる未来 ひたに望みて
ああ母校 二本松
われらは愛す われらが母校

CONTENTS

同窓会会長挨拶	2
学校長挨拶	3
創立五十周年記念事業に向けて	4
学校近況	5
新会員のことは／進路内定状況	6
同窓会だより	7
母校だより	8

■松工Eメールアドレス
school@nihonmatsu-th.fks.ed.jp

■松工ホームページアドレス
http://www.nihonmatsu-th.fks.ed.jp



同窓会会長挨拶



佐藤 忠司

プロフィール

昭和四十年年度土木科卒業
日本国有鉄道盛岡工事に就職、国
鉄から東日本旅客鉄道株式会社・東
北工務事務所勤務し、平成十九年
一月定年退職後、仙建工業福島支店
に嘱託として勤務し、昨年三月に退
職し年金生活に入りました。ミニ同
級会を楽しんでおります。

「創立五十周年と復興に 向けがんばろう」

会員の皆様には益々ご健勝のこと
とお喜び申し上げます。

昨年は昭和三十七年福島県立二本
松工業高等学校として開校。安達高
校を仮校舎として機械、電気各一学
級で発足して以来五十周年を迎えま
した。今年は記念事業を十一月十七
日に行われます。実行委員会を発足
し、父母と教師の会・学校教職員・
同窓会で実行委員会を昨年は二回開
催し準備を進めています。費用は保
護者・教職員の負担金、同窓会の中

心とした協賛金で行います。皆様の
ご協力をよろしくお願いいたしま
す。同窓会の独自事業は、「応援歌碑」
を造りたいと準備して居ります。協
賛金の集まり次第では、次の機会に
持ち越しとなります。

昨年は三月十一日の東日本大震災
による地震、津波、同時に原発事故
による放射能被害に加え農漁業・観
光の風評被害、また七月下旬の新潟・
福島豪雨、九月には台風十五号によ
り受けた河川・道路・港湾及び家屋
の崩壊と全県が五重苦に会わされま
した。

復興に向けて、松工で培った技術
力・技能を十分に発揮していただき

たいと思います。

特に原発事故は他の事故とは違
い、ひとたび重大事故が発生すると、
放射性物質が外部に放出され、もは
やそれを抑える手段は存在せず、損
害は空間的にどこまでも広がる危険
があり、将来にわたって危害を及ぼ
す可能性があり、地域社会の存在さ
え危うくします。

また、政権交代で公約した「子供
手当」「高校授業料無償化」も自民・
公明・民主党の三党合意で改悪され
そうなことは重ねて怒りを覚えま
す。

経済状況も昨年のニューヨーク・
ウォール街で始まった貧困と格差に
反対する運動が全世界に広がってい
ます。この運動が掲げるスローガン
は「1%の大金持ちが支配する社会
でいいのか」「私たちは九十九%だ」
は日本の現状と似たものがありま
す。

大企業の内部留保は二百六十兆円
にも及び、一方で国民の所得は減り
貧困と格差が拡大し、長期にわたっ
て「成長が止まった国」と言われて
いる状況です。

国際人権規約は教育を受ける権利
を保障するために高等教育の漸進的
無償化を定めています。欧州では学

費無償にとどまらず、学業に専念で
きるように、経済的状況に応じて生
活まで保障する給付奨学金を支給す
ることが当り前になっています。家
計を気にせず学べる、返済のない奨
学金にして欲しいものです。

今年は震災の影響で就職難が予想
されましたが、松工では先生の献身
的な努力により昨年並みの水準に近
づきつつあると聞いています。ただ
就職をした後仕事がかたないとか、
労働が辛いとかで退職すると、後輩
の就職に多大な影響が出ている現状
も知っていて欲しいものです。

わが在校生の活躍では「工事担任
者試験」及び「電気工事士試験」で
は引き続き大量の合格者を出し『資
格の松工』の伝統を守って頂きまし
た。本人の努力に敬意を評すると共
に、指導に当りました先生の献身的
指導に感謝を申し上げます。また、
カヌーでは山口国体への出場、マイ
コンカーの全国大会出場、バトミン
トン・柔道の東北大会出場と活躍さ
れた在校生の皆さんにも敬意を表し
たいと思います。

改めて創立五十周年記念行事の成
功にむけて皆さんの御協力をお願い
します。

学 校 長 挨拶



湯田 恒弥

プロフィール

下郷町生まれ。専門教科は工業（機械）。趣味は、山登り（白帰）、スキー、読書等。福岡工（岩手県）、川俣、福島工（定時制）、喜多方工、会津工、郡山萌世（定時制）、平工に勤務し、平成二十二年四月本校に着任、現在に至る。

東日本大震災で揺れた 平成二十三年

同窓生の皆様方がお過ごしでしょうか。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力賜りまして厚く感謝申し上げます。また、本校生が東北大や全国大会へ出場する際には、激励金や励ましの言葉を戴くなど、ご支援いただきまして誠にありがとうございます。

昨年、三月十一日に東北地方太平洋沖地震が発生しましたが、同窓生の中で被害を受けられた方には謹んでお見舞い申し上げます。地震が発生した時は高校入試期間であったため生徒は登校していませんでした。その後の調べで、生徒・教職員には

幸いにも人的被害がないことが確認でき一安心しました。しかし、あの激しい揺れで校舎の一部は破損。具体的には実習機械の一部、新実習棟二階天井と壁の境目、屋根ガラス、求真庵の屋根瓦等の破損です。また、交通機関が途絶したことにより生徒の通学や教職員の出勤が困難となりましたので休校にしました。そのため三月中に予定していた授業や終業式、離任式等は実施できませんでした。また、教職員の人事異動も四ヶ月間凍結されるなど異例づくめで新年度を迎えました。幸いにも校舎の破損は授業にあまり支障がありませんでしたので四月からは予定通り授業を始めることが出来ました。ただ放射線の関係で体育や外での作業を

伴う実習などの授業は制限されるなど影響を受けました。また、グラウンドの表土除去工事は夏休み中に実施したため、校内陸上競技大会や校内球技大会等の行事は予定を変更して九月と十一月に行いました。両大会とも運良く天候に恵まれて無事に終了することが出来ました。

五月十二日には小高工業高校のサテライト校も開校し生徒七十七名と教職員十八名が本校を利用しながら教育活動を開始しました。デザイン棟一棟の二・三階と生徒棟の東側三教室を利用して現在も授業を続けています。

今年度は情報システム科が学級減になったのですが、昨年十月に募集定員が発表となり平成二十四年度は再度、定員八十名となりました。ただ、コースについてはエレクトロニクスコースとコンピュータコースの二つで展開してまいります。

こんな状況の中でも、本校の伝統である資格取得面では例年以上の成果をあげました。電気工事士（第一・二種）、工事担任者試験（Ⅰ・Ⅲ種）、乙種危険物取扱者試験などで多数の合格者を出すことができました。

毎年の事ながら、生徒達は部活動等でも活躍しています。カヌー部はインターハイで第六位入賞、バドミントン部と柔道部は東北大会出場、工業高校独自の「ものづくり大会」

の一つであるMCR（マイコンカーラリー）県大会では上位を独占し、県内最多の三台のマシンが昨年に引き続き全国大会へ出場することが出来ました。

三年生の進路についても不安が多々ありました。東日本大震災の影響で求人はいなくなるのではないかと？昨年より増えた就職希望者、しかも地元志向の強い本校は苦戦を強いられるのではないかと？……しかし、三年生と担任・進路指導部・工業各科・保護者が一枚岩となって取り組んだ結果、そんな不安は解消されました。昨年を上回る勢いで内定率を高め、一月十一日現在で就職希望者百四十七名のうち百四十五名が内定（九十八・六％）しています。なお進学希望者三十八名については全員、希望校に合格しています。

このように地震により、いつもと変わったところもありますが、部活動や資格取得などの良き伝統は継続しております。

最後になりますが、本校は今年十一月十七日（土）に「五十周年記念式典」を予定しております。今年は百周年に向けて新たな一歩を歩み出します。松工の良き伝統を守り、実社会に役立つ心豊かな人間性をもった人材を育てるために本校の教職員は一人丸となって取り組んでまいります。どうか今後とも、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

創立五十周年記念事業に向けて

本校は平成二十三年、創立五十周年を迎えました。過日、同窓会・PTA・学校の代表者が集まり「創立五十周年記念事業」に向けて、第一回実行委員会を開き、実行委員長に同窓会会長の佐藤忠司氏、副委員長にPTA会長の安達秀司氏、同窓会副会長の秋山孝雄氏が選出されました。日程や記念事業の内容、予算等についての話し合いがなされ、平成二十四年十一月十七日に記念式典を挙行することが決定されました。また、記念講演では、アートユニット『明和電機』による講演を予定しています。今後さらに同窓会会員の皆様には記念事業成功に向け、ご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

一、記念式典

平成二十四年十一月十七日（土） 午前十時三十分より

二本松市 市民会館

二、記念講演

平成二十四年十一月十七日（土） 午後一時三十分より

二本松市 市民会館

『明和電機』

1993年結成のアートユニット。青い作業服を着用し作品を「製品」、ライブを「製品デモンストラーション」と呼ぶなど、日本の高度経済成長を支えた中小企業のスタイルで活動。

■学校沿革

昭和三十七年四月

福島県立二本松工業高等学校として開校。機械科・電気科一学級。

昭和三十八年四月

機械科一学級増・電子科・土木科新設。

昭和四十四年四月

工業デザイン科新設。

昭和四十六年十一月

創立十周年記念式典を挙行。

昭和五十六年十一月

創立二十周年記念式典を挙行。

平成四年十月

記念誌「三十年のあゆみ」を刊行。

平成十四年十月

創立四十周年記念式典を挙行。

平成十六年四月

機械システム科・情報システム科・都市システム科に学科改編。

平成十九年十一月

実習棟完成式典を挙行。

協賛金のお願い

会員の皆様には、日頃より同窓会活動にご協力いただき、まことにありがとうございます。この度、創立50周年記念事業の成功に向けて、協賛金を募りたいと考えております。昨今の厳しい経済状況の折、恐縮ではございますが、記念事業の完遂及び母校の更なる発展のため、格別のご高配・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆協賛金の主な支出項目

記念誌の刊行

記念行事の開催（式典・記念講演）

◆協賛金額

一口 5,000円（ご協力いただいた方には、記念誌をお送りいたします。）

◆募集期間

平成24年10月末までご協力をお願いしておりますが、できましたら平成24年5月31日（木）までにお振込みいただくと幸いです。

◆協賛方法

同封の振込用紙にて、お振込みください。

平成21～23年度 年間資格・検定試験取得数

平成24年2月10日現在

国 家 資 格					検 定 試 験				
資格名		平成 21年	平成 22年	平成 23年	資格名		平成 21年	平成 22年	平成 23年
ガス溶接技能講習		85	83	79	実用英語検定	準2級	2	0	3
ボイラー技士講習		78	76	3級		13	0	13	
2級ボイラー技士		11	0		リスニング英語検定	1級	2	0	0
電気工事士	第1種	15	13	17		2級	16	1	17
	第2種	14	12	14		3級	24	20	28
危険物取扱者	乙1類	14	7	3	計算技術検定	3級	184	166	150
	乙2類	8	2	6	漢字能力検定	2級	1	3	1
	乙3類	5	4	4		準2級	16	17	9
	乙4類	56	28	15	3級	87	87	4	
	乙5類	10	2	6	情報技術検定	2級	0	15	17
	乙6類	15	6	4		3級	114	130	77
消防設備士	乙4類	0	1	0	実用数学検定	準2級	5	0	2
土木施工管理技士		1	2	1		3級	6	2	1
車両系建設機械 運転技能者	小型車両	35	48	44	基礎製図検定		54	48	39
	フォークリフト	121	44	97	機械製図検定		22	22	38
	高所作業	11	15	28	測量技術検定	1級	0	22	19
	締固用機械	24	35	31		2級	28	48	43
玉掛け			22	36	パソコン利用技術検定	2級	3	1	2
工事担任者	DD1種	3	4	2		3級	14	9	32
	DD3種	24	24	20	レタリング検定	3級	20	11	21
技能士	3級	1	0	1	グラフィックデザイン検定	3級	22	16	28
					カラーコーディネーター	3級	1	2	0

平成23年度 各種大会成績（東北大会以上）

全国大会

○カヌー部

・平成23年度全国高等学校総合体育大会

男子カナディアンフォア500m 第6位

菅野達也・武田慶紀

斎藤 晃・服部拓斗

・第66回国民体育大会 おいでませ！山口国体

男子カナディアンシングル200m・500m準決勝進出

斎藤 晃

○情報システム科

・ジャパンマイコンカーラリー 2012全国大会

アドバンスクラス

中田章博・小林拓矢

ベーシッククラス

丹治 匠

男子カナディアンペア

第5位 斎藤 晃・武田慶紀

男子カナディアンフォア

第3位 菅野達也・武田慶紀

斎藤 晃・服部拓斗

・第2回東北高等学校新人カヌースプリント選手権

男子カヤックペア

第3位 大槻一樹・嶋原雄斗

男子カナディアンペア

第3位 斎藤 晃・武田慶紀

男子カナディアンシングル

第3位 斎藤 晃

男子カヤックフォア

第6位 大槻一樹・嶋原雄斗

朝倉章太・佐藤公也

○バドミントン部

・第40回全国高等学校選抜バドミントン大会東北地区予選会

男子団体 二回戦

小泉 崇・水梨直人・菅野晃太・武藤和紀

牛坂京介・菅野 敦・舟橋脩平・阿部聖浩

東北大会

○カヌー部

・第14回東北高等学校カヌースプリント選手権大会

男子カナディアンシングル 第6位

斎藤 晃

○柔道部

・第34回全国高等学校柔道選手権東北地区大会

60kg以下級

渡邊翔太

学校
近況

新会員のことは

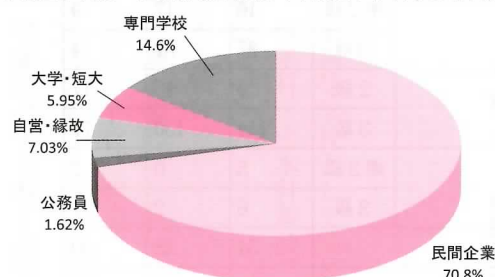
三年五組 佐藤 舞人

この度、私達は二本松工業高等学校同窓会に仲間入りをさせて頂きました。この学校を卒業し、それぞれの道を歩んで行く私達にとって、それは嬉しくもあり、不安でもあります。私達はこの高校生活で学んだ様々な経験のおかげで今の自分があり、この経験があるからこそ私達は先へ進むことができると思っています。それはとても喜ばしいことです。しかし、慣れ親しんだ学校を去る寂しさは私達皆同じ気持ちです。

昨今、就職活動が困難で明るい話題がなかなか聞かれない中でも、我が校の生徒が次々と内定をいただけたのは、すばらしい伝統を残されてきた先輩方の活躍と厚い信頼があったからだと思います。

これから私達は同窓会の会員としてお世話になるわけですが、まだまだ未熟者であります。そのため分からない事、あれこれ迷うこと多々あると思いますが、そのような時こそ先輩の教えや伝統を思い浮かべ、一つ一つ乗り越えて行きたいと思っています。皆様方の温かいご指導ご助言をよろしくお願いいたします。

■平成23年度 進路決定状況（平成24年1月30日現在）



■平成23年度 進路決定状況（平成24年1月30日現在）

学科名	民間企業	公務員	自営・縁故	大学・短大	専門学校	卒業予定者
機械システム科1組	28	0	3	0	5	36
機械システム科2組	25	2	3	3	4	37
情報システム科3組	22	1	3	4	7	37
情報システム科4組	33	0	0	2	5	40
都市システム科5組	23	0	4	2	6	35
合 計	131	3	13	11	27	185

進路内定状況

就職 県内 (94社127名)	
アサヒ通信株式会社	東北オカヤ株式会社
石橋建設工業株式会社	東北江南株式会社
遠藤建設株式会社	東陽工業株式会社
大槻電設工業株式会社	東洋プラスチック精工株式会社郡山工場
株式会社アドバンス	東和株式会社
株式会社イイジマ二本松営業所	トーヨーワークス株式会社
株式会社池田織工	ナンシン精工株式会社
株式会社磯野製作所	日昇工業株式会社
株式会社エイテック	日伸工機株式会社
株式会社オウジ	柏洋硝子株式会社二本松工場
株式会社尾形製作所	パナソニックエレクトロニクスデバイスジャパン株式会社
株式会社尾形土建	光建設株式会社
株式会社菊池製作所	福島キヤノン株式会社
株式会社キヌガワ郡山	福島製鋼株式会社本社・吾妻工場
株式会社協栄製作所	福島電話工事株式会社
株式会社久野製作所	福島ルビコン株式会社
株式会社蔵場	藤田建設工業株式会社
株式会社小松製作所郡山工場	富士通アイソテック株式会社
株式会社コンノ製作所	前田製管株式会社郡山工場
株式会社商報舎	三春工業株式会社
株式会社菅澤建設	宮本技研工業株式会社
株式会社田口型範二本松工場	柳沼精工株式会社
株式会社テレイン東北	矢田工業株式会社
株式会社東北電設	有限会社D&N
株式会社東和電気	有限会社MGM
株式会社トキワ本宮工場	有限会社上妻製作所
株式会社中川水力	有限会社吾妻プレス工業
株式会社日東紡テクノ	有限会社飯田製作所福島工場
株式会社日本デジタル研究所	有限会社神野藤建設工業
株式会社光製作所	有限会社日下部電気
株式会社福島芝浦電子	有限会社佐藤製作所
株式会社マルコ物流	有限会社ふち通信サービス
株式会社丸峯観光ホテル	有限会社本田エンジニア
株式会社三船	有限会社丸中建設
株式会社瀬満和プレジション本社工場	有限会社ヤマサ工業
株式会社渡辺製作所	ウメハラサッシ
北芝電機株式会社	織田工業株式会社
共伸プラスチック株式会社	株式会社コーセイ
弘栄建設工業有限公司	株式会社セイコーロジスティクス郡山センター
コバックス株式会社	株式会社田崎運送
三光化成株式会社	株式会社道路切断施工
三立土建株式会社	日東運送株式会社
社会福祉法人わたり福祉会	南電設株式会社
住軽エンジニアリング株式会社	有限会社浅川製作所
高橋電機工業株式会社	有限会社カワサキ
テクノメタル株式会社	有限会社斉藤工匠店
東邦ゴム工業株式会社	有限会社松本商事

就職 県外 (14社17名)	
Du・Pay PROGRESS	
伊藤製パン株式会社	
キヤノン電子株式会社	
東京美術紙工協同組合	
日産自動車株式会社	
日清オイリオグループ株式会社横浜磯子事業所	
東日本電気エンジニアリング株式会社	
日立ビアメカニクス株式会社	
日野自動車株式会社	
福島製鋼株式会社	
フジパンググループ本社株式会社東京事務所	
プレス工業株式会社	
三菱自動車工業株式会社技術センター	
港シビル株式会社	

就職 公務員 (3名)	
安達地方広域行政組合	
陸上自衛官候補生	

進学 大学 県内 (2校7名)	
日本大学工学部 機械工学科	
日本大学工学部 電気電子工学科	
日本大学工学部 情報工学科	
日本大学工学部 建築学科	
奥羽大学 薬学部	

進学 大学 県外 (3校3名)	
東北工業大学 情報通信工学科	
作新学院大学 経営学部経営学科	
千葉工業大学 情報科学部情報工学科	

進学 短期大学 県内 (1校1名)	
福島学院大学短期大学部 保育科第一部	

進学 専門学校 県内 (9校14名)	
福島県立テクノアカデミー会津職業能力開発校 電気配管設備科	
福島県立テクノアカデミー会津職業能力開発校 自動車整備科	
福島県立テクノアカデミー郡山職業能力開発短期大学校 精密機械工学科	
福島県立テクノアカデミー郡山職業能力開発短期大学校 組立技術工学科	
福島県立テクノアカデミー郡山職業能力開発短期大学校 建築科	
福島県立テクノアカデミー浜敷職業能力開発校 機械技術科	
郡山健康科学専門学校 理学療法学科	
郡山ヘアメイクカレッジ スタイリストコース	
郡山ヘアメイクカレッジ 美容科	
国際アート&デザイン専門学校 グラフィックデザイン科	
国際アート&デザイン専門学校 イラストレーション科	
国際ビューティー・ファッション専門学校 ファッションビジネス科	
国際メディカルテクノロジー専門学校 看護学科	

進学 専門学校 県外 (10校13名)	
関東工業自動車大学校 2級自動車整備科	
国際航空専門学校 航空整備科	
仙台工科専門学校 環境土木工学科	
仙台リゾート&スポーツ専門学校 スポーツトレーナー科	
仙台リゾート&スポーツ専門学校 アスレチックトレーナー科	
専門学校デジタルアーツ仙台 ミュージックスタッフ科	
専門学校東京デザイナー学院 アニメーション科	
専門学校東京メディアアカデミー 声優養成科	
専門学校トヨタ東京自動車大学校 自動車整備科	
総合学園ヒューマンアカデミー仙台校 バリフォーミングアート・ブライダル声優専攻	
成田航空専門学校 航空整備科	



総会報告

平成二十三年年度総会は湯田校長のご臨席を賜り、七月二十三日(土)「ウェディングパレスかねすい」にて行われました。

二十二年収支決算書・二十三

同窓会 だより

年度予算書は下記の通りです。

校長先生の話題は、カヌー部の躍進、工事担任者DD第3種、進路希望数など生徒の現状報告でした。同窓会長は小高工業高校のサテライトについてや、来たる創立五十周年記念事業の協賛金についての話でした。総会の中で東京支部との打合せの話も出ました。

総会後も五十周年記念事業内容についての貴重なご意見を受け賜り、親睦を深めることができました。

■ 平成23・24年度役員 ■

役職	氏名	卒年度	科
会長	佐藤 忠司	40	土木
副会長	山田 治雄	39	機械
〃	丹波 保子	41	電気
〃	渡辺 義子	44	電気
〃	大津 清吉	44	電気
〃	小川 実	48	電気
〃	山田 義勝	46	機械
〃	熊川 則徳	49	土木
〃	山田 久美子	55	土木
〃	佐藤 喜市	57	電気
〃	内田 昭光	41	土木
〃	阿部 一	42	土木
〃	安部 八司	42	土木
〃	野地 芳子	44	土木
〃	尾形 已	47	土木
〃	高橋 正	49	土木
〃	橋本 正	51	土木
〃	新井 栄	54	土木
〃	清水 水	57	土木
〃	清尾 浩	58	土木
〃	金次郎	60	土木
〃	高橋 弘	60	土木
〃	高橋 周	H5	土木

顧問	氏名	備考
初代会長	鈴木 清治	
二代会長	木相 昭次	
三代会長	阿部 昭吉	
前会長	菅野 恒	

選考委員会	氏名	卒年度	科	備考
委員長	秋山 孝雄	39	機械	副会長
委員	渡辺 保子	41	電気	副会長
委員	高橋 邦	49	機械	事務局次長
委員	小沢 源太郎	54	機械	理事
委員	小形 義元	60	土木	理事
委員	小形 義元	48	土木	事務局・会計

会報委員会	氏名	卒年度	科	備考
委員長	丹治 茂雄	40	機械	副会長
委員	田中 正一	47	土木	理事
委員	橋本 正	51	土木	理事
委員	鈴木 新	57	機械	理事
委員	高橋 孝	H5	電気	理事
委員	高橋 孝	H5	電気	事務局

事務局	氏名	卒年度	科	備考
局長	大甲 三光	47	土木	都市システム科職員
次長	高橋 義元	49	機械	(会報委員)都市システム科職員
次長	高橋 義元	48	土木	会計・選考委員 都市システム科職員
局長	佐藤 孝	H5	電気	会報委員 情報システム科職員

■ 平成22年度同窓会決算書 ■

収入の部 合計 1,630,804 円

科目	22年度予算額	22年度決算額	増減	備考
会費	950,000	940,000	△ 10,000	188人×5,000円
入会金	400,000	400,000	0	200人×2,000円
雑収入	279	83	△ 196	預金利息等
繰越金	290,721	290,721	0	
計	1,641,000	1,630,804	△ 10,196	

支出の部 合計 1,402,845 円

科目	22年度予算額	22年度決算額	残額	備考
会議費	200,000	217,710	△ 17,710	役員会、同窓会総会
行事費	30,000	27,626	2,374	入会式
通信費	50,000	30,000	20,000	ハガキ、切手
会報費	195,000	184,275	10,725	会報発行
慶弔費	30,000	15,000	15,000	香典、その他
記念品費	190,000	166,656	23,344	卒業記念品
後援費	350,000	311,480	38,520	くろがね祭後援金、激励金、広告
事業費	300,000	269,508	30,492	会報発送費用
事業積立金	130,000	100,000	30,000	
事務費	120,000	58,590	61,410	データ管理費
予備費	46,000	22,000	24,000	退会金等を含む
計	1,641,000	1,402,845	238,155	

残額 227,959 円

■ 平成23年度同窓会収支予算書 ■

収入の部 合計 1,483,000 円

科目	23年度予算額	22年度予算額	増減	備考
会費	935,000	950,000	△ 15,000	187人×5,000円
入会金	320,000	400,000	△ 80,000	160人×2,000円
雑収入	41	279	△ 238	預金利息等
繰越金	227,959	290,721	△ 62,762	
計	1,483,000	1,641,000	△ 158,000	

支出の部 合計 1,483,000 円

科目	23年度予算額	22年度予算額	増減	備考
会議費	230,000	200,000	30,000	役員会、同窓会総会
行事費	30,000	30,000	0	入会式
通信費	50,000	50,000	0	ハガキ、切手
会報費	200,000	195,000	5,000	会報発行
慶弔費	30,000	30,000	0	香典、その他
記念品費	190,000	190,000	0	卒業記念品
後援費	180,000	350,000	△ 170,000	激励金、広告
事業費	300,000	300,000	0	会報発送等
事業積立金	150,000	130,000	20,000	
事務費	100,000	120,000	△ 20,000	データ入力費・事務用品等
予備費	23,000	46,000	△ 23,000	
計	1,483,000	1,641,000	△ 158,000	

歳出予算科目に過不足が生じたときは、会長にはかり各科目間において流用することが出来る。



ジャパンマイコンカーラリー 2012 全国大会
3年4組 中田 章博、小林 拓矢、丹治 匠



柔道部
第34回全国高等学校柔道選手権東北地区大会
2年2組 渡邊 翔太



バドミントン部
第40回全国高等学校選抜バドミントン大会 東北地区予選会
2年2組 牛坂 京介、小泉 崇 2年5組 菅野 晃太
1年1組 舟橋 脩平 1年2組 水梨 直人、阿部 聖浩
1年3組 武藤 和紀、菅野 敦



カヌー部
平成23年度全国高等学校総合体育大会
3年1組 菅野 達也
2年1組 武田 慶紀、斎藤 晃
1年4組 服部 拓斗、塩谷 勇太

個人情報保護法について

さて、皆様もご承知のとおり、『個人情報保護法』が施行されました。

私ども同窓会においても会員の皆様の個人情報について、管理の徹底・安全対策を充分に図って参ります。

なお、住所変更や個人情報についてのお問い合わせは、本会事務局にご連絡をお願い申し上げます。

福島県立二本松工業高等学校 同窓会事務局
tel 0243-23-0960



創立 20 周年記念碑



創立 40 周年記念碑

福島県立二本松工業高等学校

創立 30 周年記念
銅板による校章と学校名

事務局
佐藤孝則

高橋周平
鈴木新栄

委員
橋本正一
本田正

会報委員長
丹治茂雄

なお今回の会報は、五十周年記念行事のお知らせを兼ね、すべての同窓生にお送りいたします。そのほかに会報の必要な方は、事務局までご連絡ください。

この節目の年の十一月十七日(土)に松工の五十周年記念行事を開催することになりました。同窓生全員の協力で、心に残る記念行事を行いたいと思います。積極的なご協力をお願い申し上げます。

このような大変な時期ではありますが、二本松工業高等学校も、一九六二年四月の開校以来、一万人を超える卒業生を社会に送り出し、満五十年が過ぎようとしております。

まもなく、東日本大震災より一年がたとうとしておりますが、福島県は東京電力福島第一原発事故による放射能被害があり、復興にはまだまだ時間がかかりそうです。

編集後記